

普及活動情勢報告（令和３年９月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

シシトウ養液栽培がスタートしました！



仮定植作業の様子

J A 高知県南国営農経済センター管内で８月末から順次シシトウの定植が始まり、今園芸年度からシシトウ養液栽培を開始する「A i t o s a 株式会社」も９月１０日に栽培がスタートしました。

農業改良普及課は、仮定植作業に立ち会い、良い苗の判断方法や今後の管理、初期の害虫対策の重要性等について情報提供しました。職員からは、「この葉は、定植して大丈夫だろうか」、「キューブの湿り具合はどうか」など質問があり、熱心に取り組む姿が見られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、栽培技術定着に向けて支援していきます。

キャベツ産地化に向けて～キャベツの栽培実態調査を開始～



品種による生育差の調査の様子

９月１４日、南国市の国営事業による基盤整備後の露地野菜の産地化に向けて、J A と協力し、有望品目の一つであるキャベツの栽培実態調査を南国市のキャベツ農家３戸で開始しました。

栽培管理についての聞き取りや、品種・作型による生育状況や収穫時期の違いについて継続調査を行い、南国市における秋～春出しキャベツ栽培の体系構築を図ることで、基盤整備後のスムーズな産地化に向けて取り組んでいきます。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して調査を行い、基盤整備後のキャベツの産地化を支援していきます。

（農）ファーム西永野への経営管理支援



ディスプレイを使った入力内容確認作業

「農事組合法人ファーム西永野」の会計担当者が交替するため、経理技術の向上に向け、８月２４日に今年度４回目の簿記記帳支援を行いました。

重複記帳のミスを防ぐため、昨年度までの出納帳入力から簡易振替伝票入力へと入力方法を変更したので、会計担当者からは、「現金立替はどのように考えたらいいか」、「簿記データを部門分析にも活かせるようにしたい」といった声がありました。

今後も月一回のペースで記帳支援を行い、新しい経理担当者が早期に記帳方法を習得できるよう支援していきます。

新規就農希望者（ユズ研修生）への支援



資料の説明をする
普及指導員

9月17日、農業改良普及課は、研修受入れ農家、ユズ部会長、香美市、JAと共に、ユズ研修生に対して先進農家研修開始後の面談を行いました。

研修計画を元に、研修期間中に習得が必要な栽培技術や借受予定園地の改植時期などについて確認しました。

先輩農家から、防除作業の段取りや剪定のポイント、改植作業等への助言があり、研修生からは「段取り良く作業することが必要なことなどがわかった。これから色々な作業を体験して学んでいきたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、部会、関係機関と連携しながら、研修生のスムーズな就農に向けた支援を行っていきます。

収穫が始まります ～水晶文旦部会収穫前果実分析～



果実分析を行う普及指導員

7月29日及び8月26日、JA香美地区果樹部水晶文旦部会の果実分析を果樹試験場の実験室を借りて行いました。

農業改良普及課は、営農指導員と協力して持ち込まれた果実21果（7/29調査）及び35果（8/26調査）の重さを測定し、1果ずつ皮を剥いで果汁を搾り、Brixと酸含量を測定しました。分析の結果、Brixは長雨の影響で昨年よりもやや低い傾向でしたが平均で11.8と十分に甘く、酸含量は0.85wt%と順調に低下しており、まもなく食べ頃になっていることを確認しました。8月末からすでに収穫が始まっている園地もあります。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、高品質果実の生産を支援していきます。

優良種子の確保に向けて～水稻採種ほ場審査～



ほ場審査を行う審査員

9月6日及び10日、関係機関と共に香北採種組合の水稻‘ヒノヒカリ’採種ほ場の審査を実施しました。

ほ場審査では、異品種や特定病害の有無、いもち病などその他の病害についても調査しました。全てのほ場で異品種や特定病害は確認されませんでした。今年では中生水稻の出穂期に長雨が続き、いもち病やごま葉枯れ病、稲こうじ病が例年に比べ多く見られました。審査後には生産者へ今後の栽培管理や雑草の抜き取りなどを指導しました。全ほ場合格の結果に生産者は安堵し、収穫に向けてさらに気持ちを引き締めていました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携し、水稻の優良種子生産を支援していきます。